

秋田県大雨による災害における感染予防 ダイジェスト版 被災地・避難所で生活する際の感染予防

2017年7月27日

〈食事と衛生〉



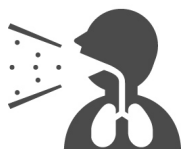
- ・ 暑いところに放置された食事(おにぎり、おかず)や、中まで火がよく通っていない肉などを食べない。
- ・ 食事の前には石鹼と流水で手を洗う(擦り込み式のアルコール手指消毒薬がある場合には使用する)。

〈トイレと感染症〉



- ・ トイレを使用した後は石鹼と流水で手を洗う。(擦り込み式アルコール手指消毒薬がある場合は使用する)。
- ・ タオルの貸し借りは避ける。

〈風邪・感冒〉



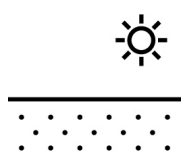
- ・ 咳などがある時にはマスクをする。
- ・ とっさのくしゃみの時はティッシュや肘の内側で口と鼻を覆う。
- ・ 鼻水や痰が手に付いた時は手を洗う。

〈ワクチン接種〉



- ・ 麻疹、風疹、水痘、おたふくかぜ、破傷風、百日咳、日本脳炎などの予防接種を受ける。特にお子さんは定期予防接種をきちんと受ける。

〈暑さ・ストレス・熱中症〉



- ・ こまめに水分と適度な塩分を補給し、できるだけ涼しい場所で過ごす。
- ・ めまいや顔のほてり、頭痛、筋肉のけいれん、だるさ、大量に汗をかくなどの症状があるときは早めに医療機関に相談する。

瓦礫の撤去、復旧復興作業における感染予防

〈傷と感染症〉



- ・ 作業の際には、丈夫な靴や手袋を履く。
- ・ 傷があるときは流水できれいに洗う。
- ・ 傷口が膿んだ時、赤く腫れて熱感や痛みがある時は、医療機関に相談する。

〈土壌や環境水への接触と感染症〉



- ・ 屋外での作業の際には、長靴やゴム手袋などを着用する。
- ・ 埃が舞う場合はマスクを着用する。

〈ダニと感染症〉



- ・ 屋外での作業の際には、皮膚の露出面を少なくし、虫よけスプレーを用いる。
- ・ ダニに刺されたら、無理に取り除こうとせず、医療機関で取り除いてもらう。
- ・ 屋外での作業後、発熱と発疹などの症状が出た場合には、医療機関に相談する。

〈蚊と感染症〉



- ・ 日本脳炎ウイルスをうつす蚊が活動する、日没から夜間にかけて肌の露出を少なくしたり、虫除けスプレーを使用する。

被災地へ支援に行く方に留意いただきたいこと

○体調が悪い場合には無理をしない。

特に、発熱、咳、発疹、下痢などの感染症が疑われる症状がある時には、体調を整えてから現地に向かう。

○必要に応じワクチンを接種しておく

麻しん：2回のワクチン接種を終了しておく。

破傷風：45歳以上の方は、破傷風に対する免疫を持たないことが多いため、創傷を負う可能性が予想される時には、事前に破傷風トキソイドを接種する。